

別紙

温室効果ガス削減実施状況報告書

1 事業の概要

/(1) 事業所の名称

府中市クリーンセンター

/(2) 事業所の所在地

府中市鵜飼町74番地2

/(3) 業種

廃棄物処理事業

2 計画の期間

本計画の期間は、平成23(2011)年度を基準年度とし、平成24(2012)年度から平成29(2017)年度までの6年間とする。

3 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標の達成状況

原単位算定に用いた指標： 可燃ごみ処理量 (t)

温室効果ガスの種類	基準年度の実績(a) 平成23年度	目標年度 上段：目標(b) 下段：削減率(c) 平成29年度	計画期間の実績 (上段：原単位実績(d), 下段：削減量の対基準年度比(e))					
			平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
エネルギー 起源CO <sub>2</sub>	0.529 (4,067 t-CO <sub>2</sub> / 7,690t)	0.502 (3,414 t-CO <sub>2</sub> / 6,801t)	0.497 (3,859 t-CO <sub>2</sub> / 7,762t)	0.539 (4,249 t-CO <sub>2</sub> / 7,890t)	0.506 (4,122 t-CO <sub>2</sub> / 8,139t)	0.505 (3,984 t-CO <sub>2</sub> / 7,883t)	0.503 (3,910 t-CO <sub>2</sub> / 7,775t)	0.522 (3,988 t-CO <sub>2</sub> / 7,633t)
		5	6	△2	4	4	5	1
非エネルギー 起源CO <sub>2</sub>								
メタン								
一酸化二窒素								
フロン類								
温室効果ガス 総排出量	0.529	0.502	0.497	0.539	0.506	0.505	0.503	0.522
		5	6	△2	4	4	5	1
エネルギー消費 原単位(原油換 算kl)	0.529 (4,067 t-CO <sub>2</sub> / 7,690t)	0.502 (3,414 t-CO <sub>2</sub> / 6,801t)	0.497 (3,859 t-CO <sub>2</sub> / 7,762t)	0.539 (4,249 t-CO <sub>2</sub> / 7,890t)	0.506 (4,122 t-CO <sub>2</sub> / 8,139t)	0.505 (3,984 t-CO <sub>2</sub> / 7,883t)	0.503 (3,910 t-CO <sub>2</sub> / 7,775t)	0.522 (3,988 t-CO <sub>2</sub> / 7,633t)
		5	6	△2	4	4	5	1
実績に対する 自己評価	基準年度の原単位に比べて減少しているが、H26年度からH28年度の原単位と比較してみると増加している。これは、二酸化炭素量の排出量が増加していることに起因している。施設の稼働状況をみると単位時間当たりのごみ処理量が減少しています。このことが施設の稼働時間を増加させ、無駄なエネルギー消費の大きな要因となっています。この原因を突き止め、改善していくことが、一層の分別指導・減量化と併せて必要不可欠な取組みとなっています。							

※ 削減率(c) = ((b) - (a)) / (a) × 100      削減量の対基準年度比(e) = ((a) - (d)) / (a) × 100

#### 4 温室効果

#### ガスの排出の抑制に係る具体的な取組の実施状況

##### ○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項目	削減量等	具体的な取組み
1	燃料使用量の削減	灯油使用量を原単位前年比で0.6%削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 排ガスの流通するダクト・熱交換器等にダスト・タール等が付着しており、乾燥設備での燃料消費の増加の大きな原因となっている。これを徹底的に点検清掃することで、改善を図る。</li> <li>・ ごみ処理での乾燥工程・排ガス処理での高温脱臭に多くを使用するため、この乾燥・脱臭工程での適正な温度管理を行う。</li> <li>・ 施設の運転については、短時間運転とならないように、適切な運転管理を行う。</li> </ul>
2	電気使用量の削減	電気使用量を原単位前年比で0.6%削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単位時間当たりのごみ処理量が減少しています。このことが施設の稼働時間を増加させ、無駄なエネルギー消費の大きな要因となっています。単位時間当たりの施設のごみ処理量が排ガスの流通するダクト・熱交換器等にダスト・タール等が付着しており、乾燥設備での電力使用量の増加の大きな原因となっている。これを徹底的に点検清掃することで、改善を図る。</li> <li>・ 冷暖房温度の適正管理</li> <li>・ 使用していない空間の照明器具の消灯の徹底</li> <li>・ 電力デマンドを監視し、適切な運転管理により、契約電力を下げる等の取組みをし、使用量の削減に努める</li> </ul>

##### ○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み（環境価値の活用等）

	種類	合計量
1		
2		
3		

##### ○ その他の取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1	市民啓発（広報）		廃棄物の出し方・分け方について、広報等により、廃棄物量の削減や分別の推進を随時実施。


※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。